

今週（8月27日から8月31日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、資金需給要因に大きな変動はなく、日銀当座預金残高は393兆円前後の高水準で推移した。

無担保コールO/N物は、積み前半ながら引き続き都銀・信託・地銀・証券業態を中心に調達意欲は旺盛で、加重平均レートは月末を除き、週を通して▲0.05%台前半の展開となった。月末要因で31日は調達ニーズがやや剥落し、全般的にレートは小幅低下となった。

ターム物は、先週対比で取り上がりの展開が続き、1W～2W物を中心に、▲0.03%台の出合いが複数見られた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは31日に2W物・8,000億円がオファーされ、1,291億円（期落ち額1,141億円）と札割れとなった。

●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.160～▲0.090%のレンジでの取引となった。業者の売物は然程多くない中、週前半は▲0.150～▲0.140%近辺での引き合いであったが、週後半にかけては投資家の資金調達意欲が増し、レートは上昇傾向で推移した。

SCは個別銘柄では5y130～136、10y334～351、20y160～165、30y50～59、40y11などのカレント銘柄近辺や、チーベスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、全般的に閑散としたマーケットとなる中、3Mゾーン中心に堅調な展開となった。

週初27日に2,500億円でオファーされた短国買入オペは、応札額が8,826億円と比較的少なく、平均落札利回較差▲0.004%、按分落札利回較差▲0.005%としっかりした結果となった。

31日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.155～▲0.15%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1531%、按分落札利回▲0.1463%と概ね事前予想通りの結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は月末にかけて、鉄鋼・卸売・石油・機械・その他金融など複数の業態からまとまった発行の動きが見られ、活況なマーケットとなったものの、週間償還総額1兆4,500億円程度に対して、週間発行総額は1兆5,000億円程度と若干の発行超に留まった。CP市場残高は引き続き19兆円台前半と高水準で推移しているが、プラス金利では投資家の購入需要が底堅いため、発行レートは、0%前後の狭いレンジが続いている。

28日にはCP等買入オペが2,000億円でオファーされたが、市場残高が引き続き高水準ということもあり、平均落札レートは前回比で0.002%上昇の0.001%、按分落札レートは前回と横ばいの▲0.001%となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
8/27 (月)	22,799.64	0.090	111.21	△ 0.053	△ 0.146	3,930,900
8/28 (火)	22,813.47	0.090	111.27	△ 0.051	△ 0.154	3,933,500
8/29 (水)	22,848.22	0.095	111.25	△ 0.053	△ 0.142	3,924,900
8/30 (木)	22,869.50	0.105	111.66	△ 0.050	△ 0.142	3,925,600
8/31 (金)	22,865.15	0.100	111.00	△ 0.055	△ 0.101	3,925,200

来週（9月3日から9月7日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
9/3 (月)	株価指数先物30周年記念シンポジウムにて黒田総裁講演 4-6月期の法人企業統計調査季報(財務省 8:50)	流動性供給 6,000億円 9/4発行			New York祝日 (Labor Day)
9/4 (火)	財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00) 8月のマネタリーベース(日銀 8:50)				7月の米建設支出 8月のISM 製造業景況指数
9/5 (水)	9月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)	10Y 22,000億円 9/6発行	交付税借入 10,500億円 9/13借入		7月の米貿易収支
9/6 (木)	神奈川県金融経済懇談会にて片岡審議委員講演	TB6M 23,000億円 9/10発行			7月の米製造業新規受注・出荷・在庫 8月のISM 非製造業景況指数
9/7 (金)	7月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 7月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 9:00) 7月の景気動向指数速報(内閣府 14:00) 8月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50)	TB3M 42,500億円 9/10発行	流動性供給 4,000億円 9/10発行	エネルギー 対策借入 7,000億円 9/20借入	8月の米雇用統計 4-6月期のユーロ圏GDP確報値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
9/3 (月)	800	▲ 41,200	▲ 40,400	国債買入 全店共通 CP買入 成長基盤 国債補充		9,700 1,300 2,900 1,800	9,900	▲ 30,500	財政融資資金の回収 TB3M発行▲42500償還38200 2Y発行▲21000
9/4 (火)	1,000	▲ 32,000	▲ 31,000				0	▲ 31,000	年金保険料揚げ 法人税・消費税揚げ 普通交付税 流動性供給発行▲6000 交付税借入▲10500期日10500
9/5 (水)	1,000	▲ 4,000	▲ 3,000				0	▲ 3,000	
9/6 (木)	0	▲ 22,000	▲ 22,000				0	▲ 22,000	10Y発行▲22000
9/7 (金)	0	3,000	3,000	CP買入		3,000	3,000	6,000	交付税借入▲10500期日10500
週間合計	2,800	▲ 96,200	▲ 93,400	—	▲ 4,000	16,900	12,900	▲ 80,500	

9/3は日銀予想、9/4以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、4日に大幅な交付税の払いと税揚げが予定されており、銀行業態を中心に動向が注目される。
レボ市場は利国、短国の発行に加え、投資家の資金調達需要が見込まれる為、足元GCは▲0.10～▲0.08%のレンジで推移すると予想する。

短国市場は、6日に6M物、7日に3M物の入札が実施予定となっており、堅調な相場展開が続くかどうか注目される。

CP市場は、市場残高がお盆以降横ばい圏で推移しているが、9月に入るため期末日にむけては徐々に減少していくことが予想される。

主要なイベントとしては、海外では7日に8月の米雇用統計の発表が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入